



多摩キャンパスは、桜が満開で新年度を迎えております。

長い冬が終わり暖かい日が続いております。

三月七日には経済学部教員の懇親会(経和会)が多摩センターの京王プラザホテルで開催されました。篠原正博学部長に続き白門経友会の齊藤巖氏から挨拶がありました。

ドウマヤス、アリヤン助教からも挨拶がありました。なお、三月二十五日には卒業式が挙行され、経済学部では約一千名を送り出しました。四月二日には桜の花の下で入学式が挙行される予定です。



# 白門経友会

## 新入生向けのイベントの開催

今年度も白門経友会の後援により新しい仲間作りの取り組みとして、新入生向けのイベントを以下の通り開催いたしました。なお、具体的な活動は学生組織のTAMARIVA!!が行いました。

今までの新歓パーティとは違う、一度で終わらず継続的に開催し、交流を深めていく場です。新一年生のやりたいことも応援していきます。

### 【日時】

①三月二十三日(土)  
十四時～十六時 七二〇五教室

②三月二十五日(月)  
十二時～十四時 七二〇五教室

### 【内容】

- ・緊張感ほぐします！アイスブレイクゲーム
- ・実際、大学どうなのよ？在校生の実体験、新入生同士で仲良くなりたい！グループワーク(趣味・特技別で分かれます)
- ・次はどんな集まりにしよう会議

### 【参加対象】

二〇一九年度新入生(全学部対象)



※今回のイベントでは、新一年生が四十三名参加しました。



## 経済学部のゼミの活動について

本学部では各ゼミにおいて学内を超えた活動も積極的に行われております。以下、最近の活動事例を紹介いたします。なお、詳細は本学部のホームページを参照してください。

◎二〇一九年度入学者予定者向け経済学部入学前特別教育プログラム(研究発表会)の実施

高大接続教育の一環として開始した経済学部入学前特別教育プログラム(研究発表会)を二〇一九年三月十三日(水)に実施いたしました。

本プログラムは、経済学部へ進学予定の附属四校(中央大学附属高等学校、中央大学杉並高等学校、中央大学高等学校、中央大学附属横浜高等学校)の生徒を対象にした新しい

プログラムで、二〇一八年度入学者からは第二回目の開催となりました。経済学部で学ぶにあたり必要な力をつけていただくために、入学前に本学部教育の特徴の一つであるゼミ活動の一端を経験していただき、自信と誇りをもつて経済学部に入学してきていただくことを目的としています。



プレゼンの様子



約200名の附属生が参加



懇親会の様子



審査員の本学教員と職員

これまで、高校生は本学経済学部の若手教員が執筆した『高校生から経済入門』(中央大学経済学部編、中央大学出版部)から出題された課題について、五名程度のグループで課題に関するデータや資料を集めた後、それらに基づいて議論したり、プレゼンテーションのコンテンツを作成するなどアクティブラーニングに取り組んできました。

三月十三日は、十一時～十五時まで一時間の昼食休憩を挟んで一チーム四～五人が、パワーポイントを用いながら、持ち時間約十分で発表を行いました。その後、経済学部教員より総括講義、優秀賞(一位、一位)

の発表があり、参加生徒と引率教員との振り返り後、生協食堂にて懇親会が行われました。

◎谷口ゼミ・丸山ゼミが「第九回環境シンポジウム～立川発～みんなでつくる環境ビジネス～」で提言を発表

二〇一九年二月二十七日(水)に立川商工会議所において立川商工会議所 ECO イノベーション推進協議会の十年間の活動をまとめたビデオ「Re・eco 立川商工会議所 eco プロジェクトの軌跡と未来」

が上映されました。

このビデオには二〇一六年八月より開始した経済学部との連携活動が収められるとともに、昨年の環境シンポジウムで谷口ゼミの学生が提言した「Re・eco」という言葉が同協議会の活動の象徴としてタイトルに盛り込まれました。

ビデオ上映に引き続き行われた第一部の協議会と学生の連携事業・研究発表において、経済学部・谷口ゼミ立川班の学生が「立川市の地域環境」との演題により、食品ロスと規格外野菜に焦点を当て、廃棄野菜を減らすハブによる流通システムを構築することによって、住みやすい環

境づくりを行うことについての提言を行いました。

チームの学生が「紫波町の地域活性化」との演題により、岩手県紫波町との連携により、主要作物であるりんごを活用した新たな商品「りんご琥珀糖」の試作品を実際に開発し、その販売の実現と連携活動による地域の活性化を志向する提言を行いました。

境づくりを行うことについての提言を行いました。

チームの学生が「紫波町の地域活性化」との演題により、岩手県紫波町との連携により、主要作物であるりんごを活用した新たな商品「りんご琥珀糖」の試作品を実際に開発し、その販売の実現と連携活動による地域の活性化を志向する提言を行いました。

が、藤本淳座長よりそれぞれの代表学生に授与されました。

チームの学生が「紫波町の地域活性化」との演題により、岩手県紫波町との連携により、主要作物であるりんごを活用した新たな商品「りんご琥珀糖」の試作品を実際に開発し、その販売の実現と連携活動による地域の活性化を志向する提言を行いました。

◎経済学部・FLP 国際協力プロジェクト・林光洋ゼミが高校、中学校、小学校で訪問授業を実施

経済学部および FLP 国際協力プログラムの林光洋ゼミは、二〇一一年度に学生が自主的に始めた訪問授業を二〇一八年度も実施しました。今回は、高校だけでなく中学校向け、さらに初の小学校向けの訪問授業も行ないました。

今回提言を行った谷口ゼミ立川班、丸山ゼミ紫波チームは、同協議会委員の方々が昨年十月二十七日(土)に開催された経済学部プレゼンテーション大会を見学され、連携活動を行う対象ゼミとして選ばれた

高校を担当するグループは、「世界の問題に興味をもつてもらう」および「大学生活のイメージを具体化するきっかけをつくる」ことを目的に、神奈川県立相模原高校、中央大学高校、中央大学附属高校、中央大学杉並高校の四校で訪問授業を実施しました。

#### 【高校向け訪問授業】

高校を担当するグループは、「世



谷口ゼミ立川班の発表



丸山ゼミ紫波チームの発表

高校向けの授業では、二〇一七年に林ゼミが現地調査で訪ねたフィリピンの「環境問題」や「教育問題」を題材にしたクイズを出したり、写真や映像を用いて説明したりしました。

後、生徒と一緒にグループワークをしました。

グループワークでは、「『学校に通えない』が引き起こす負の連鎖」をテーマに教育を受けられないことがどのような問題につながってしまうのか、について考えました。グループワークでは、生徒が積極的に参加し、話し合っている様子が目立ちました。生徒からは、「グループワーク形式の授業を普段やらないので新鮮で楽しかった」や「他の人の意見を聞き、さまざまな考え方があることを知ることができてよかったです」といった感想が出ました。



神奈川県立相模原高校での授業風景

授業の最後には、高校生に対して「世界の問題に興味をもち、実際に行動してみよう!」というメッセージを送り、締めくくっていました。

授業を担当するグループは、世界のことについて知るきっかけをつくることを目的に、東京都あきる野市立多西小学校と神奈川県川崎市立菅小学校の二校で訪問授業を実施しました。小学校向けの訪問授業やその問題の解決策をグループの中で話し合ってもらい、最後に、日本人としてできることについて考えてもらいました。

授業後のアンケートには、「フィリピンの現状を知り、自分はいかに幸せな生活をしているのか」ということに気づいた、「自分の当たり前が世界の当たり前ではないことがわかった」「国際協力をやりたい」「日本が開発途上国に頼って生活しているとは知らなかつた」、「自分の好き

教育へのアクセスの悪さに関するグルーブワークでは、「『学校に通えない』が引き起こす負の連鎖」をテーマに教育を受けられないことがどのような問題につながってしまうのか、について考えました。グループワークでは、生徒が積極的に参加し、話し合っている様子が目立ちました。生徒からは、「グループワーク形式の授業を普段やらないので新鮮で楽しかった」や「他の人の意見を聞き、さまざまな考え方があることを知ることができてよかったです」といった感想が出ました。

授業を実施しました。

「フィリピンがもし〇〇人の村だったら」という切り口から、生徒にフィリピンの教育、インフラ設備、ゴミ処理等の問題について体感してもらうことのできる授業を設計し、地調査で撮影した実際の写真や動画を多く用いることで生徒の視覚に訴えかけるように工夫していました。

グループワークでは、四～六人の生徒で構成されるグループに一人のゼミ生をファシリテーターとしてはり付け、積極的に話し合いをしてもらいました。ゴミ山がある街で暮らす人々や代替教育制度を利用して学習する人々に関する資料を配布し、そこから見えるフィリピンの問題点やその問題の解決策をグループの中で話し合ってもらい、最後に、日本人としてできることについて考えてもらいました。



200人近くの生徒を対象とした品川女子学院での授業風景

#### 【小学校向け訪問授業】

小学校を担当するグループは、「世界のことについて知るきっかけをつくる」

ことを目的に、東京都あきる野市立多西小学校と神奈川県川崎市立菅小学校の二校で訪問授業を実施しました。小学校向けの訪問授業は、林ゼミにとつて初めての挑戦でした。

あきる野市立多西小学校では、六年生の三つのクラスを対象にして、前年に実施したフィリピン現地調査の経験を用いながら、「ゴミ問題」、そして生活に対してもつとも身近である「水」をテーマにした授業を行いました。各クラスで六グループに分かれてもらい、地図帳を用いたワークや多くのクイズを実施しました。



川崎市立菅小学校での授業風景

授業を実施しました。

「フィリピンがもし〇〇人の村だったら」という切り口から、生徒にフィリピンの教育、インフラ設備、ゴミ処理等の問題について体感してもらうことのできる授業を設計し、地調査で撮影した実際の写真や動画を多く用いることで生徒の視覚に訴えかけるように工夫していました。

なことや得意なことで人を助けることができる」と知り、自分の将来の可能性、選択肢が広がった」という感想が生徒たちから寄せられました。

なことや得意なことで人を助けることができる」と知り、自分の将来の可能性、選択肢が広がった」という感想が生徒たちから寄せられました。

た。

授業の中の写真にも登場した、上水道の整備されていない国・地域で水を運ぶのに使われる水がめの実物を持ち上げてもらう体験をしてもらいました。水がめには水を入れていたので、なかなか持ち上げることのできない児童もいました。授業後のアンケートには、「日本での生活が当たり前ではないことを知ることができた」、「節水を心がけたい」、「ゴミの分別をきちんとしたい」、「世界のことに興味を持つことができた」等の感想がありました。

川崎市立菅小学校では、五年生を対象にして四クラス合同の授業を行ない、フィリピンでの「ゴミ問題」、そしてその解決策である「コンポスト」をテーマに授業を実施しました。合同授業の後、各クラスに戻り、振り返りの時間をとりました。そこでは、児童たちが多くの質問をし、生たちが合同授業では説明しきれなかつた内容を伝えていました。

え、あの先生がシリーズ<sup>28</sup>

経済学部 平繁 佳織



大英帝国の旧植民地であるアイルランドの文学作品は、国家・個人としてのアイデンティティの問題を模索するものが多く、グローバルという言葉がもてはやされる時代に生きる我々にも通じるものがあるよう思います。

二〇一八年四月に経済学部の英語教員として着任いたしました、平繁佳織（ひらしげかおり）と申します。入試の採点を終え、ようやく年が廻ったことを実感しながら筆をとつておられます。担当科目は一・二年生の必修英語と無学年制の特設英語です。本学に着任する以前は、アイルランド国立大学ダブリン校のPh.Dプログラムに所属しつつ、同大学の非常勤講師・チューターをしておりました。専任教員としての職に就くのは、中央大学が初めてになります。

専門は英語圏文学、特に小説と演劇を中心とした二〇世紀前半のアイルランド文学です。英文学というとイギリス・アメリカ文学を思い浮かべる方が多いと思いますが、世界共通語として英語がそれぞれの地域で独自の進化を遂げているいま、英文学の定義も変わっています。中でも

アイデンティティとは、自分が誰であるかを自分で定義することであります。授業の初回私は教壇に立つと、まずは英語で一〇分ほど話し続けます。私の名前と外見を目にした学生は「日本人の先生のはずなのに」と、そこで一度当惑します。そして「いま言つたことの何パーセントくらい伝わりましたか」と日本語に切り替えた瞬間、学生は安堵感と、ある種の不信感とが入り混じつた、実に居心地の悪そうな表情をします。私が授業を通して彼らに伝えたいことは二つ、「人を外見や肩書きなど、わかりやすい指標で判断しない」ということ。そして、「自分とは何者かを自分の言葉で説明できる表現力を養う」ということです。

大学で実際に何を学び、何を得たか、それ自体も大切ですが、最終的にはそれをどんな言葉でどのように語るかということが、その人となりを示す鏡となります。私が英語を話



2019年3月30日 第72号  
発行 白門経友会常任幹事会  
編集 白門経友会編集委員会  
〒192-0393  
東京都八王子市東中野742-1  
中央大学経済学部内  
URL: [www.wg-keiyukai.com](http://www.wg-keiyukai.com)  
Fax: 042-673-3425



（幹事長 濱岡 剛）

## 編集後記

すのは、幼稚園・小学生時代をアメリカで過ごした帰国子女であるからと言うことはひとつ説明にはなりますが、私はそれよりも、日本に帰国した時に日本語に苦労したこと、そこで英語が嫌いになつたこと、それでも『ハリー・ポッター』のおかげで英語を失わずに済んだこの方が、帰国子女という便利で曖昧な一語より、よほど自分という人間をよく表していると思います。学生たちには、自分をどう語るか、どう語れるようになりたいかをイメージしながら、有意義な大学生活を送つてほしいと願つています。

最後になりましたが、中央大学の恵まれた研究・教育環境に改めて感謝申し上げますと共に、大学発展の一助となれるよう精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて、本会の総会についてですが、今年は六月八日（土）を予定しています。詳細は次号でお知らせいたしますが、多くの会員のご参加を期待しております。

さて、本会の総会についてですが、

今年も卒業の時期がやつてまいり

ました。卒業生が、中央大学経済学部で学んだこと、物事を深く考え、

つねに新たなことを学ぼうという態

度を忘れず、社会で大いに活躍され

ることを期待しています。

さて、本会の総会についてですが、

今年も卒業の時期がやつてまいり

ました。卒業生が、中央大学経済学部で学んだこと、物事を深く考え、

つねに新たなことを学ぼうという態

度を忘れず、社会で大いに活躍され

ることを期待しています。